

梅木 加津子 議員



一括質問方式

- ① 大洲市復興計画(暫定版)
- ② 今後の治水対策
- ③ 災害廃棄物処理及び包括管理業務委託
- ④ 子育て支援
- ⑤ 肱川地域の診療所の再開
- ⑥ 会計年度任用職員

大洲市復興計画について

**問** 大洲市復興計画暫定版には、防災無線のデジタル化について書

かれているが、今回の災害による光ファイバーの切断で、肱川地域や河辺地域の公共の連絡網が遮断され、人々の暮らしに大きな被害と負担をもたらした。計画では、2022年までに防災無線のデジタル化とある

が、具体的な計画と事業の進め方をお聞きする。

**答** 7月豪雨災害では、26カ所の屋外拡声子局が被災し、市民の皆様には大変ご不便をおかけしましたが、現在では25カ所が屋外子局として稼働しており、残りも年内には全て本復旧の予定です。

現在、予定している防災無線のデジタル化は、平成31年度に電波の測定を行った上で中継局の必要数を決めていき、また、音達範囲の測定により、屋外子局の設置箇所の検討、それらに基づく事業費の積算などの実施設計業務を行う予定としています。

現在、実施設計前であることから、事業終了時期を2022年度としていますが、財政状況を考慮した上で、できるだけ早い時期にデジタル化による整備を進めていきたいと考えています。

今後の治水対策について

**問** 肱川で堆積した土砂が除けられ

ているが、どのような堆積状況の河道を、どの程度の状況まで、何カ所実施すると聞いているのか。樹

木伐採の計画も明らかにしてほしい。また、河口の長浜の堆積も心配されているがどうか。

**答** 7月豪雨災害による肱川の堆積土砂は、肱川緊急治水対策による3段階の取り組みの中での緊急的対応として、流下能力の支障となっている箇所の河道掘削や樹木伐採が実施されています。

国管理区間は、慶雲寺地区、如法寺地区で約1万立方メートルの河道掘削が行われ、白滝地区及び矢落川で樹木伐採が行われています。さらに河道の緊急点検が実施され、今後対応策を取りまとめ予算確保に努め順次実施していくと聞いています。また、県管理区間は、菅田地区の6カ所で約6万立方メートルの河道掘削が実施されています。

なお、河口の堆積土砂は、7月豪雨時の出水によって砂州の多くの部分が出たことにより、国では緊急的な撤去の必要性はなく、引き続き河川巡視等によりモニタリングを継続すると伺っています。

肱川地域の診療所の再開について

**問** 再開したばかりの肱川地域の診療所が、水害で大きな被害を受

け閉鎖された。大きな投資の後の災害のため支援なしに再開は大変だと思うが、市としてどのような支援をしていくつもりなのか。また、今後再開の目途があるのか。

**答** 7月豪雨災害で被災した鹿野川診療所は、現在経済産業省が所管するグループ補助金を活用して再開を目指されています。11月8日付で事業者別復興支援計画書を提出されており、早ければ12月の第3週ごろに施設の改修に取りかかり、順調にいけば来年2月ごろには再開できるのではないかと伺っています。

現在、本市では鹿野川診療所の早期再開に向けて必要な相談に応じるとともに、毎週火曜日と木曜日に肱川地域と神南診療所を結ぶバスを運行しています。鹿野川診療所が再開するまでは、引き続き運行することとしています。今後も、鹿野川診療所と緊密に情報交換を行い、診療所の早期再開に向けて可能な支援を行っていききたいと考えています。